

平成 24 年度 「がん診療連携拠点病院における
がん患者必携等のがん情報利用・普及状況調査」
調査結果報告

平成 24 年 11 月 27 日

独)国立がん研究センターがん対策情報センター
がん情報サービス事務局

全国の相談支援センターをはじめ、がん診療連携拠点病院の関係者の皆さまに、患者必携およびがんの冊子について、現時点までの普及・活用状況についてお伺いする調査を実施いたしました。この資料は、ご回答いただいた施設での院内および地域における情報の普及や、活用に向けたさまざまな工夫や取り組みについて調査結果をまとめたものです。本調査結果が、今後の院内・地域におけるがん情報の普及や活用に向けた取り組みにおいてお役に立てば幸いです。あらためて皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今後も、当センターではさまざまなご意見ご提案をいただきながら、情報づくりや普及・活用に向けた取り組みにつなげてまいりたいと考えております。

お問い合わせ先

国立がん研究センターがん対策情報センター
がん情報サービス事務局 患者必携係
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:0570-011-150(ナビダイヤル)*
FAX:03-3547-8577
E-mail: hikkei-jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp

0. 背景

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、がん患者とそのご家族の方々の不安を解消するために、さまざまながんの情報コンテンツの作成およびその普及に取り組んでいます。平成 21 年より「患者必携シリーズ」を作成し、全国の拠点病院に対して見本版や各種活用支援ツールをお送りしております。22 年 6 月の「がんになったら手にとるガイド」の PDF 公開、23 年 1 月の見本版配布、3 月の発刊以来、“再発したときの情報もほしい”という患者さんの声に応えて、24 年 3 月に「もしも、がんが再発したら」の PDF を公開、2 月に拠点病院をはじめとする医療機関や都道府県に見本版をお配りさせていただくとともに、発刊してまいりました。また同年 2 月からは、各種がんの解説や療養に必要な情報をコンパクトにまとめた「がんの冊子」を安価でご購入いただける仕組みを稼働させ、必要な時に必要な情報が入手できる環境づくりに努めているところです。

こうした背景を踏まえ、全国の相談支援センターおよびがん診療連携拠点病院内外での活用・普及状況について、全国 397 のがん診療連携拠点病院を対象として調査を実施させていただくことといたしました。今回の調査は 23 年度の患者必携配布・普及事業に関するアンケート調査*に続いて 2 回目となります。

*第 4 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会資料
患者必携配布・普及事業に関するアンケート調査報告書

http://ganjoho.jp/data/hospital/liaison_council/files/04/20110725_4.pdf



平成 22 年 6 月 PDF 公開、23 年 3 月発刊



平成 24 年 3 月 PDF 公開、発刊



平成 24 年 2 月よりご案内

1. 結果要旨

1) 「もしも、がんが再発したら」の周知について

相談支援センターの相談員にはおおむね知られていましたが、その他の部門の方では知っている人が限られていました。特に医師にはほとんど知られていません。相談部門以外への周知が必要な状況です。

7割の相談支援センターで、実際に患者さんやご家族にご紹介していただいております。活用にあたっては、誰に紹介すべきか、紹介するタイミング、プライバシーへの配慮、紹介する前後のケアなど、細かく配慮しながら活用されてきました。広く知っていただけるようにと、積極的に掲示していただいている施設もあり、一方で「再発の不安を抱えている人の目には触れないように」との配慮で控えめな場所に置く、という工夫を寄せられた施設もありました。また、「『相談支援センターで相談できること』の案内とともに掲示する」、「一度話を聞いて状況を見極めてから紹介する」など、個別の相談と結びつけながら必要に応じて支援する体制とともに伝えているという回答も目立ちました。

2) 「がんになったら手にとるガイド」の周知と改訂について

相談支援センターのスタッフについては、9割以上の施設で「ほぼ全員が知っている」と答えましたが、その他のスタッフへの認知度は限られていました。1年前にほぼ同様の項目で質問した結果と比較して、認知度はおおむね微増する傾向にありますが、いまだ限られた範囲にとどまっているのが現状です。

「がんになったら手にとるガイド」を院内に配布することが、がんの情報の存在を知らせる有効な手段となっていると回答した施設は合わせて7割にのぼっていました。見本版の配布は患者さんに接するさまざまな医療者への周知を第一の目的としたものでしたが、その意図に沿ったご協力をいただいた結果と考えられます。ただ「あまりそう思わない」と回答した施設からは、「院内全体の関心が低く医師や看護師にいかに関心を持ってもらうかが課題」、「意識付けをしていくことも相談支援センターの役割」といった意見が寄せられており、患者さんや家族の身近なところで情報が紹介されるよう、がん対策情報センターとしても世論への働きかけとあわせて医療関係者へのより幅広い働きかけが必要と考えられます。

3) 「がんになったら手にとるガイド」、「もしも、がんが再発したら」の売店での取り扱いについて

売店で取り扱っている施設が、「がんになったら手にとるガイド」で約半数、「もしも、がんが再発したら」で3分の1でした。入院中、通院中の患者さんにとっては、病院の売店は身近な場所です。また、病院売店の担当者からは「病院の医療スタッフからの要望があれば、会社に話が通りやすい」という意見も寄せられておりますので、ぜひ売店での取り扱いについて働きかけていただければ幸いです。

4) 「がん情報サービス刊行物発注システム」、「がんの冊子」について

ほぼ全ての施設で、「がんの冊子」が利用されてきました。また、今年の2月より開始した、がんの冊子を購入できる「がん情報サービス刊行物発注システム」についてもほぼ全ての施設において認知されてきました。このシステムに関する要望としては、発注単位を小さくする、注文できる回数を増やす、注文から発送までの期間を短縮するなどが多く見られました。全国からの要望をとりまとめて印刷することで、印刷コストを下げる仕組みをとっているため、全てのご希望に添うことは難しいのですが、ご

要望を受けて、今年度半ばより患者数の少ない一部の冊子については 50 部単位の注文に変更しております。ご要望については委託業者にも伝え、できる限り利用しやすいシステムとなるよう今後も改善を加えていきたいと思っております。

2. 調査方法と回答施設属性

1) 調査方法

平成 24 年 7 月に、各がん診療連携拠点病院の相談支援センター宛てに本調査の協力依頼を行い、相談支援センターの責任者の方、またはそれに準ずる立場の方に FAX またはメールにてご回答いただきました。(締切 7 月 20 日、8 月下旬まで集計)

主な調査項目は以下の通りです。

I	「もしも、がんが再発したら」 *(2012 年 2 月見本版配布、3 月出版)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の周知・活用状況 ・患者向け情報提供の状況 ・地域での周知に向けた取り組み状況
II	「がんになったら手にとるガイド」 *(2011 年 1 月見本版配布、3 月出版)	
III	「がん情報サービス刊行物発注システム」	・発注システムの利用状況、改善要望
	「がんの冊子」	・「がんの冊子」の利用・活用状況

2) 回答施設属性

調査は、全国 397 施設の都道府県、および地域がん診療連携拠点病院の相談支援センターの皆さまにご協力の依頼をさせていただき、以下のようにご回答いただきました。

病院属性	回答結果		
	回答施設数 ()内は対象施設数	当該属性内での 回答率	回答に 占める割合
がんセンター・成人病センター	15(20)	75.0%	5.2%
大学病院	70(88)	79.5%	24.1%
一般・総合病院	206(289)	71.3%	70.8%
合計	291(397)	73.3%	100.0%

3) 回答施設における相談支援センターの組織的位置づけ [N=291]

相談支援センターの位置づけ	施設数
1)腫瘍センター内	41
2)看護部内	11
3)地域連携部門内	136
4)医療福祉部門内	62
5)3・4 以外の医事部門内	14
6)幹部組織直下	40
7)その他	35

※複数回答

3. 調査結果

I 「もしも、がんが再発したら」について

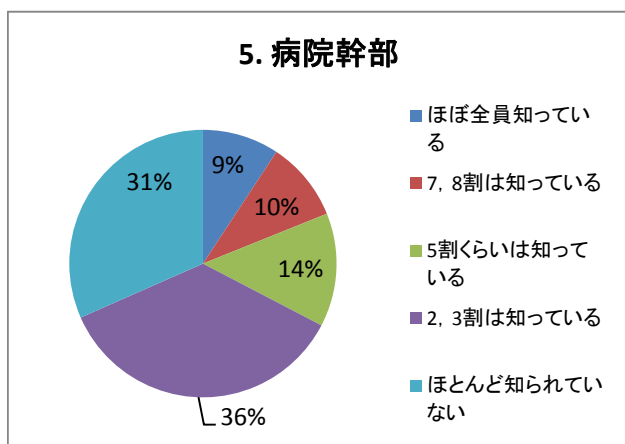
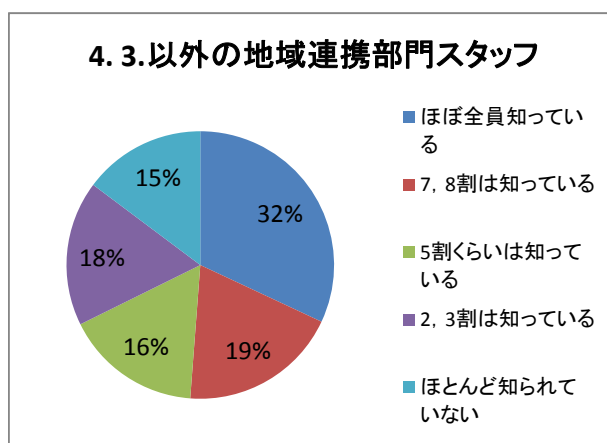
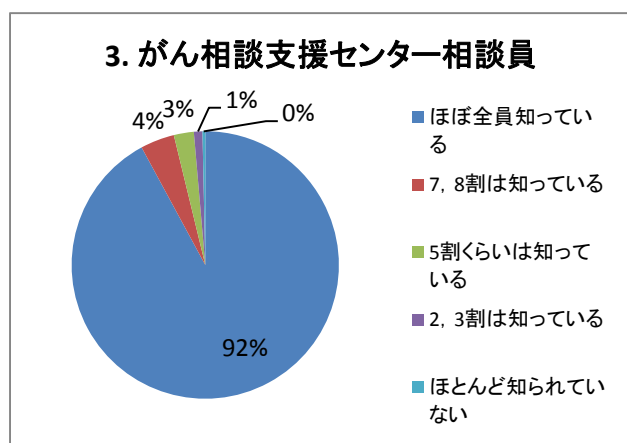
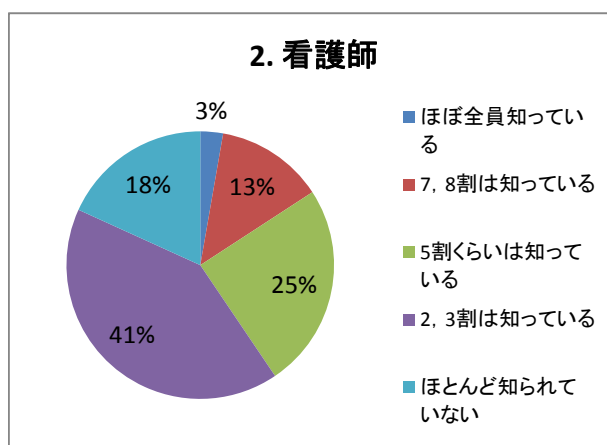
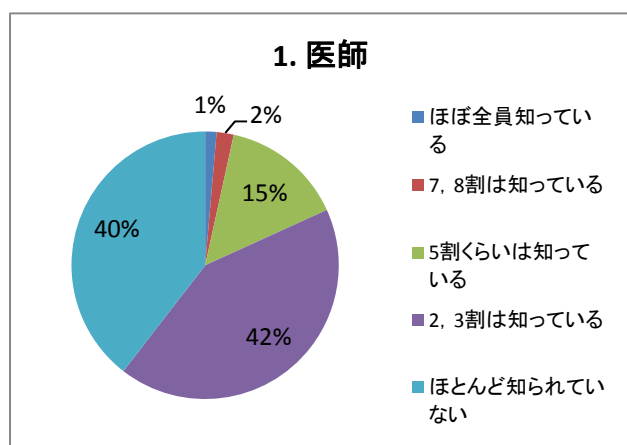
※「もしも、がんが再発したら」:2012年2月見本版配布、3月出版

問 1: 「もしも、がんが再発したら」の周知・活用状況についてお伺いします。

1-1: 貴院職員の皆さんは、「もしも、がんが再発したら」について知っていますか。

職種ごとのだいたいの認知度を教えてください。

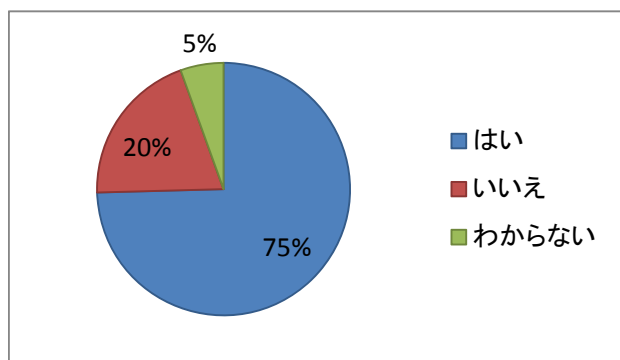
[N=291]



相談支援センターの相談員にはおおむね知られていましたが、その他の部門の方では知っている人が限られていました。特に医師にはほとんど知られていません。また、グラフでは示していませんが、がん患者の割合が高い「全がん協」加盟施設でも、「7, 8割は知っている」、「ほぼ全員知っている」と答えた施設の割合は看護部門(35%)、病院幹部で(39%)やや高い傾向はありましたが、それでも半数には満たず、相談部門以外への周知が必要な状況です。

1-2: 来院された患者さんやご家族等への状況について伺います。

「もしも、がんが再発したら」のことを患者さんやご家族等に紹介したことがありますか。



1-3: この「もしも、がんが再発したら」について、患者さん・ご家族等へ情報提供する際や、閲覧用として院内に提示する際に、留意されていることはありますか。

あるいは、留意すべきと思われる点があれば教えてください。

紹介する際の配慮	意見数
紹介するタイミングが難しい・タイミングに配慮している <ul style="list-style-type: none"> できれば、初回診断時に読む形が望ましいと思う。ただ、現実には再発という言葉に抵抗あるいは初回診断時には患者心理として考えたくないこととして避けているのが現状だと思う。医療者としてもタイミングが難しいと思っていると思う。 がんの再発の状況にある方に何度か案内しているが、そのうちの半数くらいの方は、「この本を見るとかえってつらくなりそうで怖い」と反応された。紹介のタイミングには留意すべきであると感じた。 	7
話を聞いて状況を見極めてから紹介している <ul style="list-style-type: none"> がんが再発したと訪室された患者、家族にダイレクトに紹介することはできません。話をしていく中で、相談員のお話だけでは理解していただけないときに、このような本がありますが読んでみませんかと紹介しています。 本人・家族が再発を認めたくない心理状態の時には、無理に情報提供はしない。ある程度受容ができていようなら、本人・家族の様子を確認しながら情報提供したり、数ある冊子の中の一つとして紹介したりしている。 	25
相談の中で必要と判断したときに説明を加えてから提供する <ul style="list-style-type: none"> 相談を受けている中で、この本を読んだら自分だけではないんだーという気持ちになって少し安定されるのではと思った人には、この本を紹介したりする。 単にがん情報提供コーナーに配置するのみにはしておらず、来所相談時に再発についての相談であれば対応のプロセスの中でお渡ししている。 電話相談であれば、このような冊子も相談支援センターにお渡しするものがあることをお伝えしている。以前、「がんが再発した時」を、モニターとして100冊いただいたときに、どのような機関や場所に、あるいは日常的に患者や家族と直接接触する頻度の高い福祉専門職に渡すなど、渡し方での効果測定を行ったが、相談の中で、説明も加えながらお渡しすることが効果的だと判断した。 	6
相談できることについてもあわせて情報提供する <ul style="list-style-type: none"> 気になることがあれば相談支援センターをはじめ担当医や看護師等に相談してください、と貸し出しする際に伝えている。 冊子を渡すだけで情報が独り歩きしないように注意する。特にデリケートな時期なので、心理的サポートも併せて紹介できるように気を付けています。 	8
全ての人にあてはまるわけではないことを補足している <ul style="list-style-type: none"> 本に書かれてあること全てが患者さんに当てはまるものではないことは伝えるようにしている。(情報提供時) 	4
全てを読む必要はないことを伝えようで紹介する <ul style="list-style-type: none"> 参考にできる内容が記載されている。読むのがつらいところは無理に読まなくてよい。と伝えるようにしています。 	2

医療者とのコミュニケーションツールとして活用すべき	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 本に全てを託すのではなく、患者さんご家族と医療者とのコミュニケーションツールとして活用すべきである。 	
その他全般的な配慮	2
<ul style="list-style-type: none"> ● がん関連部署には閲覧用として配架している。ただ、患者様やご家族にとって、「再発」という言葉に対し、敏感に反応されるため、心情に配慮し、取り扱いについては留意いただけるようお願いしている。 	
掲示・周知にあたっての配慮	
広く知られるように・目につく場所に配置している	22
<ul style="list-style-type: none"> ● 送付していただきました冊子に関して全て手に取り見られる状況にしています。必要な人の手元に届くよう病院の主要なパンフレット立てに設置したり、関連のある診療科スタッフへ紹介をしています ● できるだけ患者様の目につくよう全ての外来・病棟に患者様閲覧用として配布。同時に配布したらしには、院内で購入できる場所を印刷し、内1枚は掲示している。書籍はあくまでも購入していただくよう案内しているが、必要な箇所については、HPよりダウンロードし印刷の上提供している。 ● インフォメーション・がんサロンなど、目につきやすいところに院内掲示している。 	
閲覧用として提供、紛失防止の工夫している	16
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さんに無料でお渡しできるわけではないので、混乱される場合があり、注意しています。あくまでも閲覧用として、持出禁止などのシールを張って対応しています。 	
手にとりやすい形で配置している	14
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者家族などの目に入りやすい場所に設置し興味があればすぐに閲覧できるようにしています。(意図的にこの本を探して閲覧するのではなく、診察待ち時間や面会する場所で興味があればいつでも閲覧できる環境を整えているという意味です) ● 患者さん・ご家族が必要としたときに手にとってもらえるよう、各外来診療科の待合と各病棟ラウンジに閲覧用として置いている。 	
他の人に見られないように配慮している	8
<ul style="list-style-type: none"> ● 冊子を見たり、持ち帰る際にあまり人目に触れない場所に置くようにし、また気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。 ● 知られたくないという気持ちに配慮し、当センター内や患者学習室など、人目につかないかつ静かな環境でそっと手にとることができるように置いている。 	
治療中の人には目に触れない場所におく	7
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内の掲示は病院の方針でしないようにしていますし、がん患者さんも再発を恐れておられるので、特に掲示はせず、がん相談、がんサロンで案内しています。 ● 再発患者は、心理面での配慮が重要となる。再発という状況下の患者さんへの声掛けを慎重に行うとともに部署にとっては閲覧を控えるというところもあった。例えば外来化学療法センターに声掛けをしたところ、再発患者の治療は限られてくるし、心理面でも厳しい状況になることがあるし、ケアセンターではテーマも適さないからということ言われていた。 	
ゆっくり読める場所で提供している	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 関連病棟へのラウンジに配置。図書(患者・家族用)を配置する場所として、エントランスより少し離れた静かなところでドアを閉められるような場を選んでいく。 	
相談できることの案内とともに配置している	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内3カ所に閲覧用冊子を配置し、「希望の方は相談支援センターに声をかけてください」と表示している。 	
ピアサポートの情報とともに配置している	1
<ul style="list-style-type: none"> ● ピアサポートにつながるよう、冊子の近くにがんサロン、患者会の紹介ポスターを掲示している。 	
売店で購入できることを掲示	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内に掲示し、売店で購入できることを付け加えている。 	
賛否両論があったが患者の希望で配置	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 当初、休憩所(軽食とれる所)には賛否あり掲示を控えた。外来電子掲示板で周知後は休憩所でも見たいということもあり掲示している。 	

自然に・そっと手に取れるように配置	9
<ul style="list-style-type: none"> ● 再発という言葉に敏感になっている方もいると思われ、情報がほしいと思う方もいると思うので、際立たせることなく、手には取りやすいように、他のパンフレットと同じように並べてあります。 ● 精神的ショックの強い疾患だけに、過度な情報提供はせず自然と視界に入る場所に配置するようにしている。 	
希望したときに見られるように	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 名前にショックを受ける方がおられました。そのため、希望されたときに閲覧することができるように外来や病棟に並べて自由に見えるようにしています。 	
ダウンロードできることを周知	1
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットで無料ダウンロードできるという点。 	
配置については検討の必要がある	6
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域関連には、配布した。院内(病棟)のデイルームに置く予定にしているが、再発という言葉に敏感に反応する方もおられるため、まだ配置していない。 ● 再発ということ自体が各個人で受けるイメージはさまざまと思われる。一様に患者の目に入るべきところに手掲すべきかは検討の余地あり。 	
配置場所の具体例	
診療科のスタッフと連携して提供	5
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援センターだけでなく、院内全体で患者・家族に情報提供できるようにしている。一部署だけの情報発信ではなく、病院全体の取り組みとして広げていけるように留意している。 ● 各病棟では各師長に趣旨を説明し管理をしてもらい、病棟で患者さんやご家族に必要なだと判断された場合に活用してもらうようお願いしている。外来も外来師長を通じて同様に配布、活用してもらっている。最近の本(情報)へのアクセスビリティを考慮して、数か所の冊子スタンドに閲覧用として配備している。 	
資料コーナーへの設置	9
<ul style="list-style-type: none"> ● 「医療情報サロン」というがんを中心とした図書のコーナーがありますが、(図書約 1200 冊あり)そこで閲覧できるようにしています。 ● がん関係の情報コーナーに置いています。 	
がんサロンに配置	3
<ul style="list-style-type: none"> ● がんサロン内の図書に配置し、閲覧と貸し出しをしている。 	
売店におく(検討中含む)	5
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内で購入できるよう売店にも常時数冊は在庫があるように依頼している。 	
院内の多くの場所におく	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来待合・相談支援センター・化学療法室。病棟など手にとりやすいところに配置し、広く周知していただけるように配慮している。 	
がん相談窓口で閲覧・貸し出し	6
<ul style="list-style-type: none"> ● がん相談窓口で貸し出しできることを明記して、閲覧用として掲示している。 	
外来・病棟での配置	7
<ul style="list-style-type: none"> ● がんに関連のある診療科に置くように配慮している。 ● がん患者様が多く診察に来られる外来(外科、消化器、婦人科、泌尿器科など)に設置しています。また、病棟でもがん患者様が多く入院されている病棟のデイルームに閲覧用に設置しています。 	
相談対応の中で活用	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 見本を展示し、必要時相談対応に役立てている。 	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援センターの閲覧場所、患者図書館にしているが、厚いのでゆっくり閲覧されていない状況。簡易版があればと思います。 	

7割の相談支援センターで、実際に患者さんやご家族に紹介していただいていたいました。活用にあたっては、誰に紹介すべきか、紹介するタイミング、プライバシーへの配慮、紹介する前後のケアなど、細かく配慮しながら活用されていました。広く知っていただけるようにと、積極的に掲示していただいている施設もあり、一方で「再発の不安を抱えている人の目には触れないように」との配慮で控えめな場所に置く、という工夫が寄せられた施設もありました。また、『相談支援センターで相談できること』の案内とともに掲示する、「一度話を聞いて状況を見極めてから紹介する」など、個別の相談と結びつけながら必要に応じて支援する体制とともに伝えているという回答も目立ちました。院内に配布したが、その後の利用状況が十分に把握できていないので把握に努めたいという回答も多くみられました。

1-4 以下の場所での、「もしも、がんが再発したら」の利用状況について教えてください。

「相談支援センター」、「外来」、「病棟」、「患者向け図書室、患者サロンなど」、「その他」の場所において、どのように活用していただいているのか、具体的に記入していただきました。相談支援センターでは、窓口や冊子棚などに置く、相談対応の時に実際に患者さんに見せるなどして活用する、貸し出しに応じるなどの対応が多く、その他購入方法を案内したり、必要な部分をコピーして提供するという対応もありました。またスタッフの学習用に用いているという回答も目立ちました。外来、病棟でも、閲覧用として配置しているという回答が多く、そのほかにも件数は少ないですが、この本の紹介を通じて相談室の利用を促す、という回答もありました。「患者向け図書室、患者サロンなど」でも、閲覧用に配置する、貸し出し対応をするという回答が最も多く、閲覧している人は多い、多くの人が興味をもっている様子だという回答が多く見られました。

1) 相談支援センターでの利用 (有効回答数 N=258)	意見数
貸し出し対応 <ul style="list-style-type: none"> ● 常時相談窓口を設置し、希望があれば貸し出しをしている。 ● 相談の中で説明も加えながら、お渡ししている。最も効果的だと判断している。 	19
窓口や冊子棚等に設置 <ul style="list-style-type: none"> ● 他のパンフレットと一緒に設置し自由に読めるようにしている。 ● 相談支援センター入口に他のがん情報冊子と同様に配置している。各面談室にも配置。 ● 患者様利用図書に置いてあり、自由に手に取っていただけるようにしている。 	146
相談対応時に利用 <ul style="list-style-type: none"> ● 再発を心配している患者の相談に役立ちそうなときに利用している。 ● 相談場面で利用している。がん相談員以外のスタッフのために、相談室に配置している。閲覧用として配置した。 ● 相談室常設。必要時相談者、職員に紹介。 ● 資料とし閲覧できるよう設置している。相談内容の中で再発の不安が聞かれた時に、自身の不安や混乱を整理するためのツールとして紹介している。 	88
書籍の紹介の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ● 再発進行の患者さまに関して、このような内容の本があり、参考までにお読みになることをお勧めします。 ● センター利用者で相談内容から参考的にこのような冊子もありますと説明後に提供することある。 ● 患者さん・ご家族等相談者サイドから質問や情報要望があった場合に利用したり PR するように心がけている。 	47
医療者学習用(相談員用) <ul style="list-style-type: none"> ● 相談員全員に配布して周知。相談室 3カ所に見本を提示していつでも手にとれるようにした。 ● 相談員が一人ずつもっているが、自己学習に努めている。 ● 情報提供までには至っていないが、相談員が患者対応するときに参考になっている。 	23

医療者学習用(相談員以外)	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内のがん診療を行っている医師、看護師また地域の訪問看護ステーションに、この本を紹介した。 ● 相談場面で利用している。がん相談員以外のスタッフのために、相談室に配置している。閲覧用として配置した。 ● がん政策委員会などで関係職員に情報提供した。 ● 面談での利用、情報提供利用。他の医療機関職員等に紹介・配布。 	
購入方法のご案内	8
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援センター前の掲示板にポスター配布し、希望者には閲覧できるようにしている。購入方法もご案内している。 ● 患者相談室に設置し、関連の相談があった場合に見本をみてもらい購入方法などを紹介している。 ● 相談時に提示したり、一般販売されていることを紹介している。 	
必要な部分をコピーして提供	8
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援センター内に閲覧用として掲示してある。相談内容によっては情報提供の一つとして紹介(必要に応じてコピーを渡している)。 ● 相談場面において、患者のニーズに合っている部分があれば、コピーして配布。 	
2) 外来 (有効回答数 N=177)	
閲覧用として掲示、配布	138
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来ホール5~6か所の情報コーナーに掲示。 ● 外来化学療法室で治療の時間に閲覧できるようにしている。 ● 看護職員へ見本を配布し、対象の患者さんがいたら活用してもらおうようにしている。患者さんの目のつくところにちらしを置いている。 ● がん患者を診ている科へ閲覧用を配置した。待合フロアに設置のがん小冊子のラックに閲覧用とちらしを配置した ● 見本版を閲覧用として配置した(内科、外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科)。 ● がん患者が通院する科(外科、耳鼻科、泌尿器科)、当院の訪問看護ステーションへ配布したが、利用状況はわからない。 	
書籍の紹介	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 受付に掲示し適応のある患者に紹介 ● 外来待合や外来化学療法室、がん情報コーナーに配置。情報コーナーにはポスターやちらしも掲示。必要に応じてスタッフが患者さん・ご家族に紹介。 ● 腫瘍内科・緩和ケア外来にて看護師より案内することがある 	
購入方法のご案内	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 見本版の設置。希望時すぐ手に入るよう、院内の売店で購入できることを追記したポスターを一部の外来へ掲示している。 	
相談対応時に利用	5
<ul style="list-style-type: none"> ● がん総合診療科外来では診療デスクの上に保管しておき必要時冊子を基に説明を加えることある。 ● 緩和ケア認定看護師の面談時に使用 	
医療者学習用	38
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供の際に使用してもらおうよう、またまず医療者の学習用としても内容を確認するよう話したが、多忙な外来ではなかなか活用することは少ないと思う。 ● 看護師が一読して患者さんの説明時に参考にしている。 ● 外来看護師・病棟看護師へがん情報提供の一環として見本を配布し、情報共有を行っている。 	
がん相談支援センター・相談員への連携の機会として	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 必要時はがん相談支援室で閲覧するよう促してもらっている。 ● 各科外来掲示板で広報している。相談があれば相談員と連携している 	
3) 病棟 (有効回答数 N=175)	
貸し出し対応	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 閲覧用のほか、貸し出しをしている。 	
閲覧用として掲示、配布	134
<ul style="list-style-type: none"> ● デイルームに見本品を置いている。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 見本を病棟待合室で閲覧できるように配布した ● 食堂に設置(閲覧用)。 ● 談話コーナーに掲示している他、必要に応じて患者・家族に紹介したり、内容に基づき説明したりしている。 ● がんに関係のある部署のみ、団欒室の本棚に置いている。ナースステーションのカウンターに設置するところもあった。 ● 自由に閲覧できるように、がんサロン開催時に閲覧用としてテーブルに配置している。 ● 抗がん剤治療患者さんが多い病棟(1病棟)でナースステーション前に閲覧用として設置している。 ● フロアの雑誌等の閲覧箇所を設置。 	
相談対応時に利用	5
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職員へ見本を配布し、対象の患者さんがいたら活用してもらうようにしている。患者さんの目のつくところにちらしを置いている。 ● 談話コーナーに掲示している他、必要に応じて患者・家族に紹介したり、内容に基づき説明したりしている。 ● 看護師に配布し、相談に役立っている。 ● 患者、家族に紹介をしている。見本版を院内・院外での相談に活用している。 ● 相談等あった場合の情報提供。 	
必要に応じて紹介・案内	6
<ul style="list-style-type: none"> ● 談話コーナーに掲示している他、必要に応じて患者・家族に紹介したり、内容に基づき説明したりしている。 ● がん関連病棟へ配置し、関心を持ってもらい、利用してもらえようとした。 ● 各病棟へ見本や案内のちらしを配布。棟内掲示および、スタッフの閲覧により患者・家族に紹介してもらう。 	
病棟スタッフに配布	50
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職員へ見本を配布し、対象の患者さんがいたら活用してもらうようにしている。患者さんの目のつくところにちらしを置いている。 ● 各病棟師長に配布。病棟師長から病棟スタッフへ周知。 ● 各フロアに見本を配布、日々のケアに役立てられている。 ● スタッフが活用できるよう、がん関連の各部署に配置(病棟での閲覧用でナースステーション前に)。 ● 各診療科に閲覧用を配布しているが、その冊子を積極的に活用し説明や指導などを行ってはいない状況。 ● スタッフの自己啓発に利用、対応に役立っている。 ● 外来看護師・病棟看護師へがん情報提供の一環として見本を配布し、情報共有を行っている。 	
購入方法のご案内	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 各ブースに2冊ずつ配布し、自由に閲覧してもらい、必要な患者には購入をお願いするようにしている。 ● 見本版の設置。希望時すぐ手に入るよう、院内の売店で購入できることを追記したポスターを一部の外来へ掲示している。 	
がん相談支援センター・相談員との連携の機会として	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 必要時はがん相談支援室で閲覧するよう促してもらっている。 	
4) 患者向け図書室、患者サロンなど (有効回答数 N=207)	
患者向け図書室、患者情報コーナー等にて閲覧・貸し出し	170
<ul style="list-style-type: none"> ● がん情報センターに見本を常備している。(患者さん、ご家族の方出入り自由) ● 患者会の世話人の方々より再発した方々への接し方について、参考になる本を教えてほしいという依頼を衣受け、この本を紹介した。ラーニングセンターにも閲覧用に設置。 ● 患者図書室で希望者に閲覧をしている。実数は把握できないが、一定の評価を得ている。 ● 数冊図書室に設置している。閲覧している患者、家族は多いが、貸し出しは少ない。 ● 患者図書室に見本版を閲覧用として配置した。またポスター掲示を行い、近くにリーフレットを置いているが、減りも早く、多くの方に興味を持ってもらっていることがわかる。 	
患者会・患者サロン等で紹介・閲覧・貸し出し	55
<ul style="list-style-type: none"> ● 図書コーナーに配架。また、サロンへ訪れた方へは、貸し出しを実施している。 ● 閲覧用に2冊設置。患者サロンに参加した患者さんたちに紹介をし、必要な方への紹介をお願いした。 ● 患者図書室は、蔵書として常時貸し出しできるように配置。サロン時に、他の情報誌と一緒に手にとれるように展示。 	

<p>市民公開講座等のイベントの際に展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民公開講座等で見本を展示し、広報している。 ● がん関連図書室に見本(閲覧用)を設置。患者向け教室にて、利用のご案内。 	3
<p>購入方法のご案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自由に読めるようにしている。購入できるよう売店にも設置した。 ● 閲覧用として配置。希望者に貸し出しおよび購入方法を案内。 	2
<p>必要な部分をコピーして提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ご希望の方にコピーして配布したり、貸し出しをしている。 ● 乳がんサロン会やがん患者相談会(出張ピアサポート)で紹介し見本としておいてある(一部コピーし学習会で使用した)。 	2
<p>5) その他 (有効回答数 N=81)</p>	
<p>院内医療者への紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 院内のがん治療検討委員会の医師に配布。 ● 看護師長に1冊ずつ配布し、看護師への認知度を上げることによって看護師から対象者に紹介できるようにしている。 ● 緩和ケアチームのメンバーとリンクナース全員に配布し、適切な患者がいれば、本の情報提供をお願いしている。 ● がん関連の認定看護師に紹介した。 ● がん患者を多く診ている診療科の医師へ配布。 	17
<p>地域の医療・看護・介護等の関連施設スタッフへの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 訪問診療、訪問看護の地域やスタッフが来院した際に活用していただくため提供している。 ● 当院近辺の病院(10か所)に配布。患者に閲覧してもらえるように依頼しました。 ● 地域の開業医や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所と行っている「がん患者支援研修会」で紹介し、見本版を参加者へ配布した。 ● がん市民公開講座のがん情報コーナーに展示。近隣の訪問看護ステーションに配布。 ● 訪問看護ステーション、ケアマネジャー、地域包括支援センターの方等、連携をとっている機関にお渡ししている。 ● がん地域連携バス登録医療機関に配布し利用を促した。 ● 拠点病院以外でがん診療を行っている病院へ送付した。 ● 主任ケアマネジャーの研修時にお渡しし、必要時に提案してもらい、当センターに配置があることを伝えていただく取り組みを行った。 ● 地域医療機関訪問時、配布し活用をお願いしている。医療者向け講演会の参加者に配布し、供覧用で活用を依頼している。 ● ボランティア活動の一つに移動図書があり、書庫に寄贈。ワゴンに積まれている。 ● 看護専門学校に配布して、学生さんの参考図書にしている。 ● 緩和ケア研修会に参加する医師に見本を配布予定。院内の専門看護師、認定看護師、緩和ケアチームに配布。近隣の3つの保健所にちらしと見本を配布。 ● 近隣市町村の図書室に郵送、他。 	26
<p>化学療法室、地域医療連携室、栄養科、健診センター等関連部署で紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 見本版を閲覧用として化学療法室に設置。 ● 外来化学療法室に閲覧用に設置。 ● 各病棟フロアの本棚。 ● 放射線治療待合室に患者が自由に読めるように設置している。 ● 各診療科の医局、コメディカルの各部門へ配布・配置。 ● がんに関連した専門職種(認定看護師、緩和ケアチームメンバーなど)に見本を配布し、活動に利用してもらう。 ● 緩和ケアチームのメンバーとリンクナース全員に配布し、適切な患者がいれば、本の情報提供をお願いしている。 ● 本院分院のMSW、心理療法士、肝疾患など他の相談セクションスタッフ、NSなどへの配布。 ● 主任ケアマネジャーの研修時にお渡しし、必要時に提案してもらい、当センターに配置があることを伝えていただく取り組みを行った。 	20

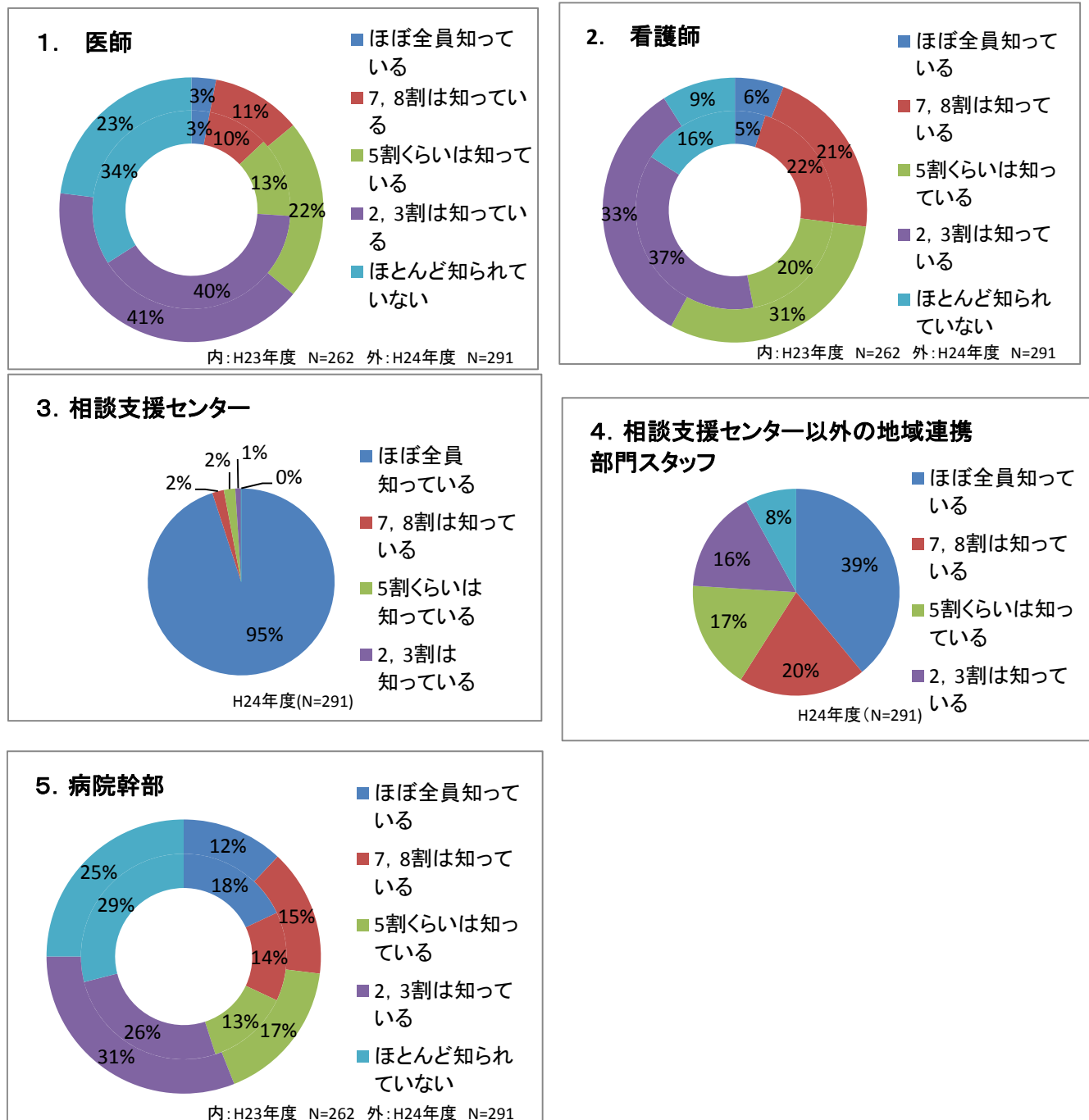
市民公開講座・研修会等イベントの際に展示	9
<p>病院主催の市民講座、緩和ケア研修会等での資料掲示。 地域の開業医や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所と行っている「がん患者支援研修会」で紹介し、見本版を参加者へ配布した。</p>	
地域の患者会・患者サロン等で紹介・閲覧・貸し出し	3
<p>地域の NPO(患者団体)のがん情報サロンにおいて紹介してもらっている。 地域の患者会:患者図書用に郵送予定。</p>	
購入方法のご案内	17
<p>患者や家族が購入できるように院内にある売店で販売してもらっている。 売店に設置し、3ヵ月で5冊程度購入されている。</p>	
電子掲示板での広報	1
<p>院内電子掲示で案内。</p>	

Ⅱ 「がんになったら手にとるガイド」について

問 2: 「がんになったら手にとるガイド」の貴院での周知・活用状況についてお伺いします。

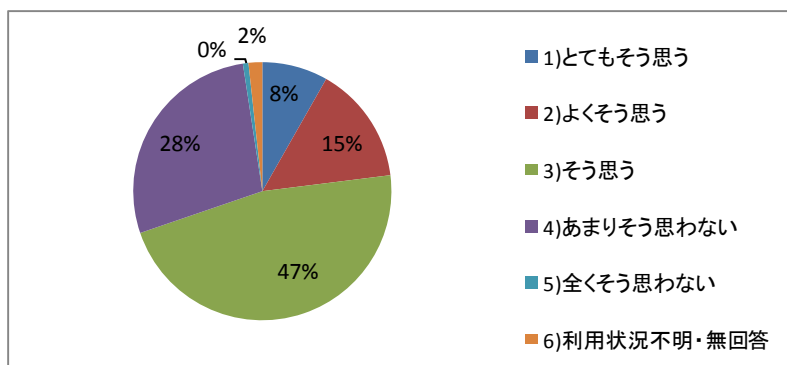
2-1. 貴院の職員の皆さんは、「がんになったら手にとるガイド」のことを知っていますか。

職種ごとのだいたいの認知度を教えてください。



相談支援センターのスタッフについては、9割以上の施設で「ほぼ全員が知っている」と答えましたが、その他のスタッフへの認知度は限られていました。医師の認知度については、がん患者の割合が高い傾向にある全がん協加盟施設であっても、「ほぼ全員知っている」、「7, 8割は知っている」と答えた施設は、25%ほどでした。1年前にほぼ同様の項目で質問した結果と比較して、認知度はおおむね微増する傾向にありますが、いまだ限られた範囲にとどまっているのが現状です。

2-2. 院内関係者への見本版の配布は、診療部門の医師、看護師にがんの情報の存在を知らせる上で有効な手段となっていますか。またその理由を教えてください。 [N=291]



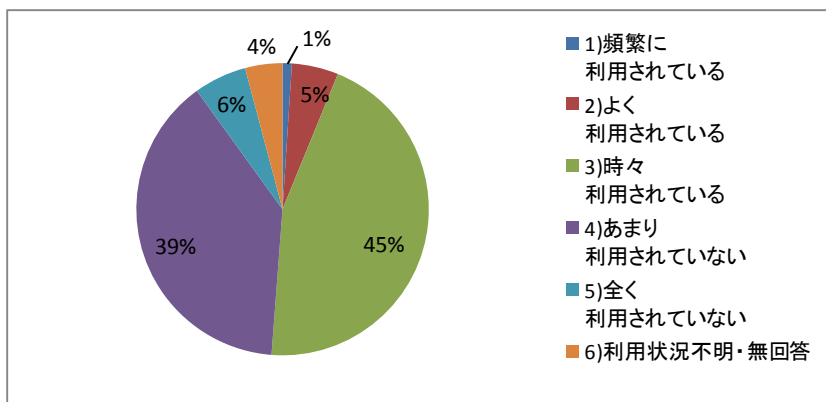
「がんになったら手にとるガイド」を院内に配布することが、がんの情報の存在を知らせる有効な手段となっていると回答した施設はあわせて 7 割にのぼっていました。見本版の配布は患者さんに接するさまざまな医療者への周知を第一の目的としたものでしたが、その意図に沿ったご協力をいただいた結果と考えられます。ただ「あまりそう思わない」と回答した施設からは、「院内全体の関心が低く医師や看護師にいかに関心を持ってもらうかが課題」、「意識付けをしていくことも相談支援センターの役割」といった意見が寄せられており、患者さんや家族が身近なところで情報が紹介されるよう、がん対策情報センターとしても世論への働きかけとあわせて医療関係者へのより幅広い働きかけが必要と考えられます。

有効な手段となっていると思う(1-3) と回答 (有効回答数 N=171)	意見数
見本があることで、実際に内容が見ることができるため活用されていると感じる	39
<ul style="list-style-type: none"> ● 実際にどのような内容が見ることができるため、どのようなことが書かれているか説明しやすい。 ● 見本版をいただくことで、具体的な内容がわかり、自身の学習や認識の改めになり、そこから患者さんへ情報提供できるため、見本が無ければ購入してまでも情報を得ようと思わないと思う。 ● 本があるおかげで、今まで関心が無かった方に関心を持っていただけた。 	
本の実物をさまざまな部署職種に配り、周知できたと思う	37
<ul style="list-style-type: none"> ● 病棟、診療部門に配布してあるが、実際に看護師(医師はあまりみないが)も見本版をみて学習をしたりしており、患者さんからの相談時の情報提供の1つとなっている。 ● 医師や看護師に「がん相談支援窓口」にどういった図書を置いているかの周知につながっているから。 ● 全 16 病棟、6 外来ブロックに配布を行い、説明した。診察室に置き、使用している先生もおられるとは聞いている。院内がん勉強会の折に、医療関係者に配布も行った。 ● 関係者が本の内容を知るためには、部署ごとに 1 冊ありいつでも閲覧できる環境が必要だと思います。本院では各部署(診療科、看護師長など)に配布したので、関係者の認知度向上につながったのではないかと推測されます。診療科の場合、医師の数が多く医師全員に周知するには至らなかった印象があります。 ● ポスターだけだと内容がわからない。実際に配布した先生看護師からもうまくコンパクトにまとまっているという反応が得られた。 ● 自分が購入するのではなく見本版なので、手に取りやすくスタッフから見せてほしいと声がかかった。 ● 師長会議の際に本の目的を説明してもらい、各病棟に配布してもらった。各外来、化学療法センター、放射線治療部等、がんに関連する部門には本を数冊ずつ配布しており、その部署で使い方についてはお任せしている。 ● 病院幹部全員、各診療科に配布し、全館メールで周知を図った。そのうえで診療科 1 冊ではなく、医師が手持ちしたいとの希望があった場合は配布する期間を作った。13 冊ほど希望があり、渡した。院内に広く配置してもらおう、事務部長にも打診した。 	
情報提供のツールとして活用されていると感じる	30
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来医師、看護師、地域医療連携室看護師も患者さまへ情報提供するツールとして使用してくれている。 ● 病棟、診療部門に配布してあるが、実際に看護師(医師はあまりみないが)も見本版をみて学習をしたりしており、患者さんからの相談時の情報提供の1つとなっている。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 医師や看護師がこの本を活用することにより、患者さんやご家族にがんに関する情報を伝える際の参考になっている。 ● 見本の有効な活用方法をそれぞれの部門が考える際に意識的にとらえていただける機会になる。 ● 院内関係者に配布したら、多くの場合、配布した関係者の外来や病棟の書棚に、見本を置いてくれている。それが、患者さんや家族の方にとって、情報提供の一環となっている場合がある。 ● 医師がインフォームドコンセントの際に利用したり、患者さんに紹介したりしている。そして、がんに関する市民講座等で、医師からも一般市民に紹介をしている。 	
<p>情報が網羅されており、医療者の学習ツールとして有効</p>	26
<ul style="list-style-type: none"> ● この本人は、がんに関わる幅広い内容が記載してあるので、自分の専門分野しか知らない医療従事者にとっては貴重なものだと思います。ただし、果たしてどの程度の人たちが目を通してはいるかは疑問です。 ● 疾患そのものだけでなく、治療にかかる費用や保険制度について、診療分の人にも知ってもらえることができるから。 ● 暮らしと医療がつながっていない感覚の急性期病棟等で医療者側も退院後や制度について理解が深まった。本を活用しながら患者家族に説明等行う場合、周りに医師や看護師にも知識が広がって患者さんへの視点が少し、生活を見据えた対応になってきたと思っている。 ● 在宅療養以降支援を必要とする患者の担当看護婦は、介護保険や医療保険制度のページを基本的な情報として読むことが多い。 ● 研修医の先生からの相談を受けた際、この本を紹介したところ研修医のデスクに置いてあったので読んでみます・・・とっていただきました。 	
<p>医療者が患者の立場になって考えるヒント、患者との関わりの参考となっていると思う</p>	13
<ul style="list-style-type: none"> ● 疾患だけでなく、患者家族を支えるための幅広い情報が1冊にまとめられており、患者側がどのような情報を必要としているかを考えるきっかけとなり、支援側としても有用なものになった。 ● 医療者が患者の立場になりどのような情報が必要か理解ができると思う。 ● その後の活用は不明だが、配布時は手にとっておられるので、このような情報は患者さんが知りたいと思っていることは理解してもらえていると思う。 	
<p>がん情報の存在と、がん情報を得る手段の周知につながったと思う</p>	12
<ul style="list-style-type: none"> ● 存在については知ってもらえると思う。実際に、ここから相談につながった事例もある。 ● 直接手にとって見てもらったのががんの情報の存在を知らせるよい機会だと思う。(当院では化学療法部運営委員会・緩和ケア委員会を通じて病院部長会で周知した) ● 各病棟・外来看護師に見本の案内をし、主に患者・家族の閲覧用として利用している。患者・家族から、看護師にどこで購入できるかなどの質問があり、がん情報の存在のアピールの一つになっていると思われる。 	
<p>信頼できる情報として有用だと思う</p>	3
<ul style="list-style-type: none"> ● がん対策情報センターが、がんに関する正確な情報を発信していることの周知につながる。 	
<p>院内関係者からの反応がよかった、フィードバックを得た</p>	20
<ul style="list-style-type: none"> ● 当院と連携している地域の診療所などへ配布し、一定の評価を得ている。 ● 一部医療者からは「分かりやすい」「患者さんに勧めたい」と意見をもらった。 ● 医師、看護師などは配布以前にすでに知っていると考えている。「手にとるガイド」については、病院スタッフに配布し、手元に置く必要がなければ、有効利用したいので相談支援センターに返却するよう求めているが返却が少ないので、関心が深いように思われる。 ● 緩和ケアの研修やがん関連の研修会で紹介をしたところ、喜ばれた。 	
<p>院内スタッフの意識の向上/院内連携強化につながったと思う</p>	6
<ul style="list-style-type: none"> ● 当院ががん診療連携拠点病院であり、情報を集約し、かつ発信する役割を持っているという自覚にもつながっていると思う。 ● この本を活用することで、院内での取り組み強化にもつながった。 	
<p>相談支援センターの認知向上につながったと思う</p>	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 活用している医師と、活用する気のない医師との差がある。相談場所として相談支援センターの存在は認識してくれている。 ● 内容を知ってもらうことで、がん患者が抱える悩みや知りたい情報について知ってもらえる。患者に対して、視点を変えて接してもらえる。また、身近な医療者がその悩みをキャッチすることで、具体的な支援として、相談支援センターを紹介、活用へとつながる。 	
<p>配布後、どのように活用されたか十分に把握できていない</p>	12
<ul style="list-style-type: none"> ● 関心のある医療者は見本版のあることによって手にとって読んでいる人もいるが、どのくらいの職員が中身を読んでいただいたか評価できていない。 ● 患者・家族への情報提供時には参考になる。ただし、医師への認知度は低いため今後検討が必要だと考えている。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 配布した時には、手に取ってくれるみたいだが、その後は本立てにいつもあるような気がする。見本を配布することで、本の存在は知っていただいていると思うが、実際の活用状況は不明。 	
有効な手段となっていないと思う(4-5) と回答 (有効回答数 N=70)	
院内関係者の関心・意識が低い、多忙な中で優先度が低いと感じる	23
<ul style="list-style-type: none"> ● 関心のあるスタッフは見て理解を深めてくださろうとするが、見ない方は見ない。 ● 医師・看護師にがん情報の必要性が理解されていない。情報が必要な患者は相談室に来室することが多いため、病棟で相談されて困ることが少ないかもしれない。相談支援部門がもっと医療者に向けてPRすることが必要と考える。 ● がんに関わる職員が限られている(少ない)ため、反応が少ない。 ● 診療科・看護部、各病棟に配布しているが、ほとんど興味を示されない。折に触れ見本版の存在を伝えている。 ● キャンサーボードなどの場面で活用方法等を医師や看護師にも説明をプレゼンしましたが、意識して活用している医師・看護師はほとんどいないと思われます。 医療者が内容を理解するだけでもボリュームが多く、多忙な中でICをする医師の現状を考えると難しいと思われます。そのような情報提供は必要な部署でやってほしいと医師は考えています。これらのがん相談支援室からの発信をさらに強化するには工夫が必要です。 ● 病院には膨大な量のさまざまな書類が送られてくるため、一つひとつをじっくりとみる時間がないため。 ● 診療部門の医師・看護師に配布は行っているが、なかなか手にとって中まで見る機会がない様子。また、がん相談員も詳しく内容について説明する機会がなく情報として活用できていないのが現状である。 	
患者向けの本であるという認識が強いため利用されていない	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さん向けの本と思い、手に取る機会が少ないように思う。 ● 患者向けの見本として活用されており、相談員以外の医療従事者については情報提供の一つの手段にまでは至っていない。 	
配布であれば、利用しやすいが、閲覧では使用しづらい	1
<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフが直接利用するわけではないため、あまり利用するという意識が向かない。また、配布であれば積極的になるが、閲覧では配置で終わってしまう。 	
周知・広報が不足していると思う	16
<ul style="list-style-type: none"> ● 病棟の場合、患者閲覧用にしており、外来の場合は外来の窓口スタッフ用に置いているが、各医師には渡していないので、おそらく本の存在を知らないと思われます。また、どのように利用するかという広報も行っていないので、“活用”には至っておりません。 ● 大学病院という大きな組織で、医師や、病院幹部への周知は困難。腫瘍センターの見直しの中で、院内へのがんに関する情報発信の方法を兼用する必要性を感じている。 ● 見本は各セクションに配布されているが、活用されていない。今後より多くの職員に利用してもらうため、周知や活用方法の検討が必要。 ● たくさんの患者向けの冊子、本がある中で、利用してみようと思ってもらえるような具体的な活用方法の提示が必要だと思う。 	
実際に活用されているかを把握できていない	21
<ul style="list-style-type: none"> ● 各外来・病棟へ配布したが、実際にどの程度の看護師が見ているのか実数把握ができていない。 ● 配布後の活用状況について調査ができていない。 ● 実際にスタッフが読んだうえでの情報提供や手段になると思うので、かなりボリュームもあるので、読んでもらえているかは不明です。 ● あまり反応が返ってこない。実際どの程度みられているかわかりません。 	
ボリュームが多く、利用に不便	5
<ul style="list-style-type: none"> ● ボリュームが多くあまり実用的ではないと感じる。 ● もう少し簡単に見られるものの方がよいのではないかと思う。 	
見本版であるためゆっくり読むことができない 購入が必要	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 見本として配置しているため、じっくり読むとなると購入が必要なため、あまり積極的に活用できていない。 	
見本版配布は必要なかった	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 冊数が多すぎる。 ● 配布をしなくても、閲覧用の見本版の設置や、院内のイントラネットなどによる情報の掲示である程度の周知はできると思われる。 ● 患者図書館が充実しているから。 	

2-3. 「がんになったら手にとるガイド」等に含まれる情報は診療・診療支援部門が患者向けの情報提供をする際に利用されていますか。 [N=291]



「頻繁に」、「よく」、「時々」利用されていると答えた施設は半数であり、利用されている場合には、説明時に紹介したり、コピーを渡したりなどの対応がなされていました。また、相談支援センターにつなぐきっかけとして利用されているという回答もありました。「利用されていない」と回答した施設からの指摘では、院内全体への周知が不足している、具体的な活用方法について十分に検討できていないこと、診療の限られた時間と治療までのスケジュールの中で活用する機会を確立できていないことなどが挙げられました。

利用している(1-3) と回答(有効回答数 N=120)	
説明時に本を提示・紹介する	67
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来医師・看護師・地域医療連携室看護師は、患者さまへの情報提供の一つとしてこの本を利用してくれている。 ● 診療科により活用度合いは異なる。相談員からの声かけ実施。昨年からの継続で当冊子に関するアンケート調査協力中のため活用の声かけも意図的になっている面あり。 ● 診療訪問で活用されることは少ない。逆に相談支援センターに見えた方に、ガイドを利用してドクターと治療について再度お話をすることはよくあります。 ● 緩和ケア外来では、患者さんへの情報提供として利用されている。 ● 病名告知時に読んでみるように医師から説明があった。 ● 外来の時に診断された患者・家族に看護師や意志を通して紹介をされている診療科があり、利用されていますが、十分ではないのが現状です。 ● 臨床腫瘍科で治療の不安を解消するため紹介。 ● ある病棟ではナースステーションのカウンターに置き、患者様やご家族に案内されている。 	
ダウンロード後患者に渡す コピーなど	7
<ul style="list-style-type: none"> ● 冊子の紹介や、必要な部分の抜粋を一部コピーして渡す。 ● 相談支援の中で、回答する際に紹介する。プリントアウトして渡す。 ● その都度ダウンロードして患者に渡している。 	
ネットを使えない方への案内	2
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットの普及により、すでにネットから情報を得ている方もあり、高齢世帯にはよく利用しています。 ● 初めて相談に来られる方やインターネットができない方等情報収集の手段があまりない方には渡している。反対にいろいろと調べすぎて混乱している方にも紹介している。 ● 病気についての一般的な内容(症状や検査、治療の流れ、専門用語等)や治療を進める上で整理が必要だと思われる場合に冊子を紹介したり、冊子を用いて情報提供を行っています。 	
利用の具体的場面について	20
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来での在宅サービスなどの情報提供を行うとき。 ● 公的助成や支援の仕組みについて説明するときなど活用している。病名告知され、全身検索の間の不安への対応として紹介している。 ● 診察時に病気のことなど説明する際に用いている。 ● がんと言われて不安そうな方にガイドを紹介。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 説明するときの言葉の選び方や患者さん、家族の心理について、理解を深めるときなど、使用している。 ● スタッフが普段あたり前に使っている用語等の説明。 ● 治療や検査等の内容や言葉の意味を調べるときにわかりやすく書いてあるので、利用することがある。 ● 口頭での説明の際に、この本を活用し具体例を追加することで、患者さんへの説得力が増している。 ● 社会資源の紹介などを、この本を用いて話をするので、少しでも不安を解消してもらおうと努めている。 ● 初めてがんと診断された方や家族の方で、がんに関連した情報を幅広く知りたいと思っている方に紹介している。 ● 漠然とした不安に対して、まず知識を得るということを支援することに役立っている。 ● 抗がん剤の副作用・栄養食事・支払いの方法・臨床試験など助言・情報提供をとてまずばやく提供利用できるようになった。 	
相談支援部門への橋渡しとして活用	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者を相談支援につなぐことが多い外来・病棟などでは、活用されていると思う。ここから、がん相談支援を活用しての治療効果の向上を目指すことがある。 ● 医師が直接この本を紹介することはほとんどないのですが、患者さん、ご家族が不安な様子の時は相談室を紹介され、そこで情報提供時に利用したり紹介しています。 	
院内販売	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 当院の売店で購入でき、病棟や外来で問い合わせがあった際にご案内している。 ● 新患や検査結果で悪性であることの説明時などにがん関連の認定看護師や専門看護師が「がんになったら手にとるガイド」を紹介し、病院売店で購入できることを説明している。 	
閲覧・貸出	11
<ul style="list-style-type: none"> ● 化学療法センター、放射線治療科では、患者、家族が手にとり読んでいるが、まだまだPR不足です。これからと考えています。 ● 院内ロビーにて患者さんやご家族が自由に手に取れるようにしている。 ● 患者自身が自由に手に取り見れるようにしているため患者自身から活用方法や情報収集について問い合わせがあり対応しているのが現状です。 ● 患者図書や病棟・外来に配架し、必要な患者には案内しています。 ● 外来化学療法室、放射線治療待合室に置き、自由に患者が読めるようにしている。 	
院内スタッフ教育学習用	8
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者、家族の質問、疑問、求める情報などに返答の際の、さらなる情報、信頼、考え方の整理、一般論の押さえなどとして。 ● 説明するときの言葉の選び方や患者さん、家族の心理について、理解を深めるときなど、使用している。 	
提携開業医へ配布し利用	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 当地域の開業医さんにアンケートを実施し、欲しいDRに配布させていただいており、当院の診察室よりも、希望して入手してくださったDRの方が使われていると思います。 	
市民公開講座・研修会等イベントの際に提示	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談室にいられた患者さんだけでなく、市民公開講座の際に参考にする等、より広い範囲で活用している。 ● 医師がインフォームドコンセントの際に利用したり、患者さんに紹介したりしている。そして、がんに関する市民講座等で、医師からも一般市民に紹介をしている。 	

利用していない(4-5) と回答(有効回答数 N=108)	
院内周知不足 認知度不足	31
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内職員に対して「がんになったら手にとるガイド」の周知があまりされていないため。 ● 診療部門は存在をあまり知らないため。 ● 周知ができていない。診療のため、周知のための期間を十分にとることができていない。 ● 内容を十分に把握しきれていないスタッフも多く、有効な情報が凝縮されているものとはわかっているが、活用して診療に役立っているとはいいがたい。 ● 診療科の医師へのアナウンスが不足していて、周知がなされていない。マンパワー不足のため、外来等で行われるICへの参加が難しい。タイムリーに介入できれば、患者・家族の不安を早期から対応でき、質の高い看護が提供できると思うが。今後の課題としたい。 	
具体的な活用方法の検討不足	9
<ul style="list-style-type: none"> ● 活用方法について検討できていない。 ● 院内での活用方法について、確立されていない。 ● 活用法が徹底されていない。配布数が少ない。 ● 各部署図書コーナーに置かれているため、利用されていないのではないかと考えられます。活用法を再度周知する必要があります。 	

状況の把握ができていない <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な聞き取りをしているわけではないため、わかりません。 ● 活用しているのが不明なのでわからない。実態が把握できていない。 	14
診療・外来において紹介する機会が確保できない <ul style="list-style-type: none"> ● がんと告知されてからの展開が速く、買ってまで読むタイミングがない。相談室を利用することの方が多い。 ● 入院時の活用は可能と思うが、実際に外来では困難。 ● 「がん」と診断、告知されてすぐに来られる相談は少なく、ソーシャルワーカーが対応する際には退院支援等の相談が多いため、タイミングとして活用する機会がなかなか無い。 ● 外来中は待合場所で自由に閲覧できるようにしているが、診察室にまでは設置できておらず、診察時の活用は難しい。 ● がん相談担当に相談がつながれたときは冊子の情報を提供する場合があるが、診療部門では一つの冊子を紹介することは難しい。 ● 多忙な日々の業務の中で有効活用ができていのかどうかは課題の多いところですが、関係各部署に配布・設置することで意識づけにはなると思います。 ● 診療時間内に本の説明をする時間を取ることができないため(薬や副作用等の説明で手が回らない)。 ● 診察室においては、ゆっくりと活用できる機会があまりないため、主に地域連携室や待合室で利用しています。 ● 各病棟・外来に配布してあるが、おそらく患者様からの相談が無い限り、紹介することは少ないのではないかとと思われる。 	22
本を必要とするケースが少ない、その他の資料で対応できる <ul style="list-style-type: none"> ● 必要とする相談ケースがそれほど多くないため。 ● 今までの自分たちのやり方があるので、基本的にはあまり利用されないと思います。 ● がん患者カウンセリング料の算定時(初めてのIC時)に、利用しているほかは、あまり利用されていない状況があります。 ● 理由は確認したことはありませんが、現場では患者さん家族一人一人に該当することを説明したり情報提供しているからではないかと思えます。 ● 待合・談話室に閲覧用として設置はしてあるが、患者に全ての情報が必ずしも必要ではないため、紹介には至らない。時間の制約もある。 ● 疾患ごとの冊子を活用するケースが多く、その冊子で情報が足りている様子である。 ● 自分たちが日常関わる中では、あまり利用されているように思えません。個別の情報や病状説明には、院内オリジナルの資料と多いため。 ● 診療部門・診療支援部門は、院内にある既存の資料を活用することが多い。 ● ガイドは情報量が多いため、使いにくさがあるようです。患者さんも医師も、がん種別の情報中心に、コンパクトな冊子を利用することが多いようです。 	23
診療部門では本を紹介するよりは相談支援センターを紹介する体制をとっている <ul style="list-style-type: none"> ● 診療の場面で、情報提供しているが、「がんになったら手に取るガイド」を利用することは少なく、相談支援センターを案内している。 ● 医療従事者が自己の知識を向上させるための手段としては用いられているが、患者および家族への情報提供が必要な場合はがん相談支援センターへ依頼があるため。 	5
ボリュームが多く、利用に不便 <ul style="list-style-type: none"> ● 各病態のパンフレットは活用されているが、ボリュームがあるため、万人受けは難しい。 ● 本が分厚く、説明等に使いにくい。使い慣れた薄いパンフレットで、必要なところに絞って説明することが多い。 	12

問3 今後の「がんになったら手にとるガイド」の普及・活用に向けたご要望などをお伺いします。

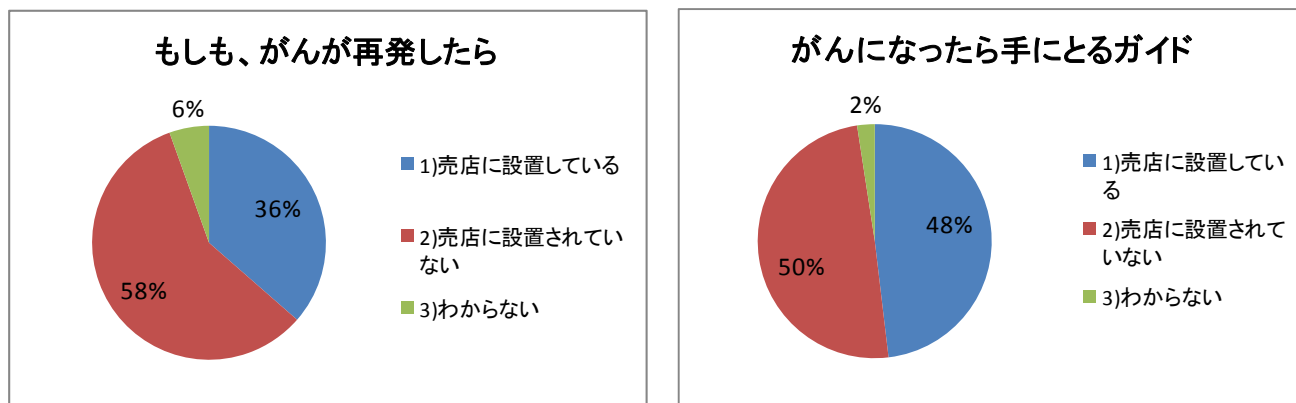
3-1. 今後予定している「がんになったら手にとるガイド」の更新において、方針・改訂で希望する点がございましたら教えてください。

更新に向けた要望としては、もっと薄く、軽く、共通部分のみにする、がん種別の情報については「がんの冊子」に含める、といった本のボリュームに関するご意見が大半を占めました。より充実させてほしいテーマとしては、寄せられた件数は多くはありませんでしたが、制度改変部分の改定、若年者の就労のこと、子どもへの伝え方などが挙げられました。広報を強化することの必要性への指摘もあり、今後のさらなる普及に向けた取り組みも進めていきたいと考えております。

体裁について:内容のスリム化・分冊化・軽量化・用紙サイズ	意見数
分量を少なく	17
<ul style="list-style-type: none"> ● 本が厚すぎる。もう少し簡単に読めるのが良い。もしがんが再発したらのような形態が良いのではないか。(各種がんに関してがんに関する冊子で詳しく紹介されているので) ● 「冊子が重たく持ち運びづらい」との患者さんからの声をいただきました。上下巻に分ける等、ご検討願います。 ● がん種が全部入っているので「全部はいらない。」という声を聞く。そういう方は購入されない。がん種が全部入っているので「値段も高い。」 	
共通部分のみにする	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 自分に関係のない疾患の内容が入ってしまうことを避けるため、全患者に共通の内容のみにしてもいいのではないかと思う。疾患別についてはパンフレット・冊子で詳しい内容にすればよいと考えている。 	
分冊にする(テーマ別・臓器別)	24
<ul style="list-style-type: none"> ● がんの冊子のようにテーマ別に分冊にしてほしい。 ● 多くの疾患が取り扱われており、総論として理解するには良いか、一人の患者さんにとっては、自分がかかったがんについて深く知りたいために無用なページが多くなってしまう。本が厚すぎるので手軽に手に取りがたい。 ● 「わたしの療養手帳」だけを別売りで、エンディングノートのように販売されると持ちやすく利用しやすいということをお願いすることがあります。 ● 全疾患に関する内容になっており、本が大きすぎる。各疾患別に分けた方が求めやすいし、患者様にも勧めやすい。 	
疾患別の項目は落とす。冊子に分担させる	5
<ul style="list-style-type: none"> ● 疾患別の項目は数年ごとに改定が必要。また、自分に関係のない疾患の内容が入ってしまうことを避けるため、全患者に共通の内容のみにしてもいいのではないかと思う。疾患別についてはパンフレット・冊子で詳しい内容にすればよいと考えている。 	
療養手帳の分冊	7
<ul style="list-style-type: none"> ● わたしの療養手帳の部分は、冊子を求めた方は手にできる。継続して使用できるように別仕立ての配布もほしい。この部分だけほしいという声もある。 ● 療養手帳だけが別冊で利用したいという患者さんの声がある。 	
用紙サイズの変更	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 一冊でまとまっているのも良いが何部か構成をわけて、購入しやすい金額・大きさにすると手に取りやすい。 ● A4 サイズがあれば、高齢の方の読みやすいと思います。 	
文字を大きく	2
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢の患者さんが多いので、文字が大きく、内容がわかりやすく簡潔なものを希望します。 	
軽量化	10
<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの疾患が取り扱われており、総論として理解するには良いか、一人の患者さんにとっては、自分がかかったがんについて深く知りたいために無用なページが多くなってしまう。本が厚すぎるので手軽に手に取りがたい。 ● 厚く重い本なので、紙質を軽くできるとよい。 ● 全疾患に関する内容になっており、本が大きすぎる。各疾患別に分けた方が求めやすいし、患者様にも勧めやすい。 	
価格について	
安価にする	10
<ul style="list-style-type: none"> ● 安価にしてほしい(500 円程度)。 ● 疾患の部分は、自分に関係のない疾患もあるので、「それで 1200 円は高い」と思う方もいるようです。 ● 一般閲覧用に設置しているものが数冊紛失するなどニーズはあると思われそうですが、有料であるため積極的に購入 	

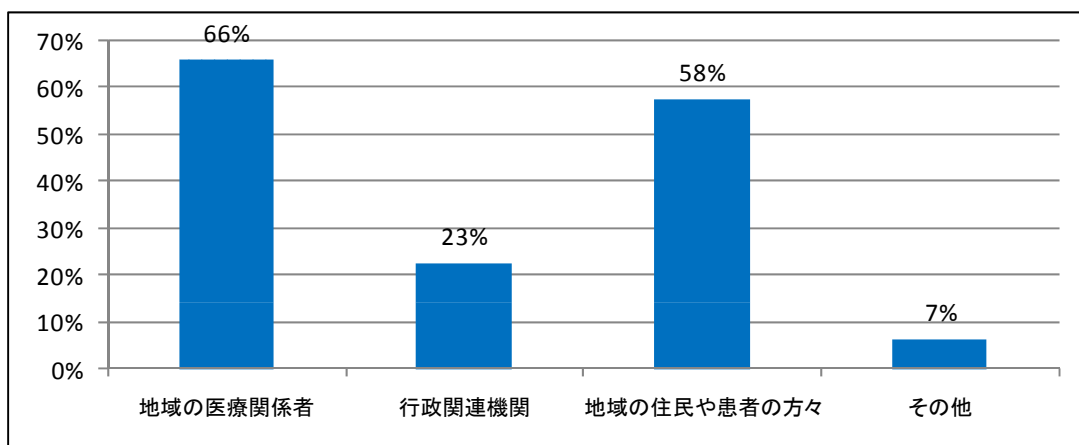
を勧めることは難しい。	
改訂内容・頻度について	
改訂頻度向上の要望	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 疾患別の項目は数年ごとに改訂が必要。 ● 利用価値の高いものなので、今後も情報の更新をしていただければありがたいです。 	
制度改定に伴う改訂	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 診療報酬の変更などある時期には改訂してほしい。 	
新たなテーマの追加・より詳細な記述・最新情報の追加	17
<ul style="list-style-type: none"> ● 当院のがん相談室を利用される患者様の多くが、すでにご自身でいろいろ調べられてから来られるので相談内容がかなり詳細になることがあります。各種がんの治療法について具体的な説明があれば(抗がん剤の種類等)もっと活用できるのではないかと思います。 ● 最新の治療情報、治療にかかる費用届など。 ● 介護保険の説明を追記していただきたい。 ● 患者同士の支え合いサロン、臨床試験、先進医療についての指針になる内容を加味してください。 ● がん治療は自宅が過ごしながらいふことがほとんどで、それは抗がん治療に限ったことではない。在宅緩和ケアに関する意識も、浸透させていかなければならない。 ● 民間療法、サプリメントなどの研究・科学データの掲載。腫瘍マーカーや検査データの種類、ふりがな、参考方法の掲載。CT、MRI の画像の見方(方向も分からない方が多い)、内臓や骨の名称・位置の掲載。若年患者向けに就労のこと、再発時のこと、子どもへの説明などをどうすべきか詳細を載せてほしい。 ● 家族への病気の伝え方についての参考になる情報があればよいと思います。比較的年齢層の若い患者が増えてい中で、がんという病気を両親や子どもにどのように伝えたらよいかについてや、チャイルドケアについて相談に来られる患者さんがいらっしゃいます。家族関係は個々によりさまざまではありますが、家族との関係性は治療を行う上で重要になりますので、患者さんにとって参考になる情報があれば良いと思います。 ● がん対策基本法とその取り組みについて掲載・情報提供。 	
図・イラストを増やす	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 文字が多すぎて、がん患者さん、ご家族が理解するのは難しいように思う。カラー、図、イラストをもっと増やしてあげてほしい。 	
関連事項の URL 表記を追加	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者が本を読んで情報を得られるように、ネット上のウェブサイトのアドレスの記載がもう少しあればいいと思う。 	
タイトルの改定	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 『がんが再発したら』もなのですが、名前で拒否感がある方がおられました。わかりやすいと思ったのですが、それぞれの価値観があるようすでのご報告いたします。 ● 『がんになったら…』というネーミングは、患者を対象とした書籍であるというイメージが強いと思われます。病院職員や医療者への周知を促進させたいという狙いがあるのでしたら、タイトルや表記の工夫が必要ではないかと思います。 	
普及方法の改善	
院内や関係者の広報を強化する	7
<ul style="list-style-type: none"> ● 研修会や地域連携会議などの場で配布している。 ● 患者、家族の相談支援に直接関わる Dr、Ns、SW 以外は「がんになったら手にとるガイド」の存在を知らないと思う。周知徹底が必要。 ● 医師や看護師、MSW が活用すること。面談する際、患者のニーズとして読みやすくフセンを付けるなどの工夫が必要。 ● 院内スタッフにガイドの存在・内容を周知することが難しいという点を改善したい。 ● 有料で購入するとなるとなかなか本屋まで行ったりする気までは難しいようですが、一部をコピーしたり、プリントアウトしたり。相談場面で差し上げると有効に使ってもらえる様です。 	
メディアを利用した普及	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 新聞などでの広報が良いのではないかと思います。新聞に掲載すると反響は少なくともあります。ポスターを院内の掲示板に張ることもよいのではないのでしょうか。そのポスターを作成していただけるとありがたいです。 	
見本版配布量の調整	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 普及用のちらしも含め、事前に数を調整したうえで配布していただけると助かります。 ● 予算の問題等あるかと思いますが、改訂の都度、見本が配布されると助かります。 	

問 4 院内の売店において、「がんになったら手にとるガイド」、および「もしも、がんが再発したら」が手に入る状態になっているかを教えてください。 [N=291]



売店で取り扱っている施設が、「がんになったら手にとるガイド」で約半数、「もしも、がんが再発したら」で3分の1でした。入院中、通院中の患者さんにとっては、病院の売店は身近な場所です。また、病院売店の担当者からは「病院の医療スタッフからの要望があれば、会社に話が通りやすい」という意見も寄せられておりますので、ぜひ売店での取り扱いについて働きかけていただければ幸いです。

問 5 貴院より、地域の医療・福祉関係者や住民の方々に対して、「もしも、がんが再発したら」や「がんになったら手にとるガイド」などに含まれる内容を紹介したり、配布・普及について連絡を取ったりしていますか。 [N=291]



7割近い施設で「地域の医療関係者」へ、2割を超える施設で「行政関連機関」への配布・普及が行われていました。地域の関連機関の情報収集や連携は、相談支援業務を行う上でも重要であると考えられますので、これらの機会を、連携を深める機会として活用していただければ幸いです。「地域の住民や患者の方々」向けとしては、市民公開講座や患者会、サロンなどで活用しているという意見が多数でしたが、地域の図書館や教育機関への配布という医療以外の部門での活用について取り組まれている施設もありました。がん対策情報センターでは、がんになる前から情報の存在を知ってもらうことが大切であると考えており、このほどお送りした「知れば安心 がん情報」も含め、より広い範囲で活用について積極的に進めていただければ幸いです。

1) 地域の医療関係者 へ (具体例)	意見数
連携パス登録施設・医師に配布	16
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のがん連携パスの登録先に見本版と共にリーフレットを郵送し案内した。 ● 県下でがん診療を行っている病院へ見本版を配布した。また、がん地域連携クリティカルパス患者の新規登録時、連携医療機関へ訪問の際に本を紹介、配布している。 	
その他医療機関(地域の病院、診療所、訪問看護ステーション、薬局、介護支援事業所)	94
<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問診療所、訪問看護ステーションへ見本を一部ずつ配布(カンファレンスなどの来院時にあわせて)。 ● 地域の病院・診療所、調剤薬局など。 ● 連携先の地域の医療機関・在宅チーム(MSW、NS、介護士、在宅医)に、手渡ししました。 ● 医療圏内の他の拠点病院と連携を取って調整の上、二次医療圏の医師会、提携病院、診療所、訪問看護ステーションなどへ、配布した。 ● がん拠点病院ではないがん診療を行っている病院連携室に電話をして、連絡した後希望部数を送付しました。 ● もしも、がんが再発したら」を県内北部地区主任介護支援専門員研修講師を引き受けた際、受講者 50 名に配布、紹介した。症例検討会を開催した際、拠点病院ではない、連携先の医療機関に配布した。 ● まだ取り組んでおりませんが、退院前のカンファレンスでの在宅スタッフへの紹介や緩和ケアカンファレンス時に紹介していきたいと考えています。 	
研修・カンファ・勉強会等のイベント時に配布	76
<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃関わる他院 MSW、MSW 協会員と接触の際に配布している。 ● 在宅看護ネットでの訪問看護師の集まり等で紹介。 ● 薬剤師会の研修会で紹介(開催予定)。 ● 地域の開業医や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、健康福祉センター、市役所介護保険課と行っている「がん患者支援研修会」で紹介し、見本版を参加者へ配布した。 ● 緩和ケア研修会で必ず情報提供を行っています。(地域の病院、クリニックの医師が参加されています。) ● カンファレンス等で当院に来院された時のご紹介、希望者にはお渡しすることもある。 ● 緩和ケア研修会など医療者向けセミナーでの紹介や配布。看護大学への提供。 ● 県内がん相談員等研修会に参加した、病院相談員に見本盤を配布した。 	
施設訪問時に持参	17
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の医療機関訪問の際、希望があればお配りし、設置してもらう。 ● 研修会、あいさつ回りの医療機関等で配布。 ● 連携関係にある医療機関で訪問看護ステーションなどへカンファレンスの際に配布したり、病院訪問を行った時に配布した。 	
医師会・看護協会・薬剤師会や地域の組織を通じて配布	13
<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤師会にもお願いをして地域の調剤薬局に設置してもらっている。 ● 地域医師会を通じ、所属会員の医療機関へ配布してもらいました。 ● 医師会で見本を配布。 ● 県内がん診療連携病院へ見本版配布、看護協会へ見本版配布、県内医療機関へのポスターへの送付。 ● 地域の病院、市医師会の在宅医療支援ネットに登録されている診療所、薬剤師会薬局、市内の全訪問看護ステーションで紹介分とともに見本版を送りました。 ● 訪問看護ステーション、県医師会、介護支援専門員の会へ配布、または紹介をしている。 	
2) 行政関連機関 へ (具体例)	
市役所	8
<ul style="list-style-type: none"> ● 「がんになったら手に取るガイド」は、市役所、地域包括支援センター、訪問看護ステーションへ配布普及に努めた。 ● 市役所、保健所に配布。 	
保健所・保健センター	23
<ul style="list-style-type: none"> ● 保健所にポスター、リーフレット、見本をおいてもらっている。 ● 保健所・地域包括支援センターに閲覧用として設置を依頼し、配布。 ● 保健センター・県立図書館にリーフレットを置いてもらった。病院主催の緩和ケア研修会で見本を展示。 ● 地域の保健所、保健センターへ紹介、配布しました。 ● 市内保健センターへ閲覧用の設置・「患者さんのしおり(概要版)」の配布 	
地域包括支援センター・介護支援事業所・社会福祉協議会などに紹介・配布	21
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の包括支援センター、訪問看護ステーションなどに配布。 ● 市内の全地域包括支援センターに紹介文とともに見本版を送りました。 	

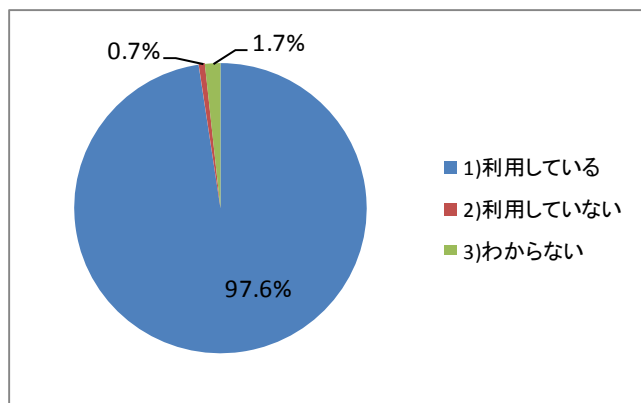
<ul style="list-style-type: none"> ● 症例検討会に参加した行政職員が、数冊送付があったが、数がもう少し欲しいので分けてほしいとの依頼があり、5冊渡した。症例検討会に参加した地域包括支援センターへの配布。 ● 市が運営する相談支援センターに配布しました。 ● 保健センターや社会福祉協議会へ案内。 	
研修・カンファ・勉強会等のイベント時に紹介・配布	19
<ul style="list-style-type: none"> ● 「がんになったら手にとるガイド」のパンフレットを居宅介護支援事業所・地域包括支援センターが参加する連絡協議会で配布した。 ● 多職種会議などで紹介。 ● ケアマネジャー連絡協議会の研修会、市町村および県保健師の会議や研修会、保健所が主催する在宅ケア研修会で紹介。 ● がんの症例検討会で、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの職員で希望される方に配布した。 	
3) 地域の住民や患者の方々へ	
市民公開講座等のイベント時に周知	76
<ul style="list-style-type: none"> ● 当院と関わりのある患者会へは情報提供をいたしました。市民公開講座では次回、ちらしは配布させていきたいと考えています。 ● 市民公開講座等でポスター掲示、見本盤を閲覧できるようなコーナーを設けた。市民向けの広報に「がん相談支援センター」の周知内容を掲載した。 ● 健康フェスタという病院を地域に開放したイベントがあり、その際、がん患者さん・ご家族を対象に希望者に手渡した。患者会で必要な方に手渡した。 	
患者サロン・患者会・患者図書館	117
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者会代表者に見本版を渡し、紹介した。書店や当院の売店でも購入できることをお知らせした。 ● 当院のがんサロンは地域にも開放されており、図書コーナーで閲覧可能としている。 ● 患者サロンのテーマで、高額療養費制度や医療費控除等の精度をお知らせする際に、参考資料として用い、「がんになったら手にとるガイド」の閲覧も同時に行いました。 ● サロンや、勉強会の時に閲覧できるようにしました。 ● 患者会にも当院で把握している団体については本を提供させていただきました。 	
ケーブルテレビにて紹介	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談員より、情報探しに関する講演会を行う際には、必ず一部に患者必携に関する話をさせていただいている。今後ケーブルテレビにて、がん相談に関する番組を放送する際に、一部必携に関する話をさせていただく予定。 	
市民向け広報に掲載	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民向けの広報に「がん相談支援センター」の周知内容を掲載した。 	
4) その他	
看護等の分野の学校・講座での紹介や配布、研修者の派遣元への配布	14
<ul style="list-style-type: none"> ● 附属の看護学校に配布した。 ● 看護学校や認定看護師の講座で紹介した。 ● 看護学生や研修に来られた医療機関や訪問看護師を紹介した。 ● 実習にみえた看護大学生に紹介。 ● 遺伝カウンセラーのための実践集中講義。 	
各種イベント・研修会等	2
<ul style="list-style-type: none"> ● リレー・フォー・ライフの出張相談にて、本のしおりの配布や見本版の閲覧を行った。 ● 在宅療法を支えてくれるケアマネに配布。(カンファレンス等に参加してもらった場合に) 	
図書館・文化センター・公民館・教育機関へ配布	14
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内の公民館、地域包括支援センター、文化ホール等 10 か所に配布した。 ● 保健センター・県立図書館にリーフレットを置いてもらった。病院主催の緩和ケア研修会で見本を展示。 ● 実習にきている看護学校、大学に紹介しています。 ● 文化センター、図書館への配置しました。 ● 地域包括センターや公民館などで市民と職員を対象に、がん相談についての講演会と、手に取るガイドの紹介をした。 	

Ⅲ 「がん情報サービス刊行物発注システム」、「がんの冊子」について

問 7 「がんの冊子」の利用・活用状況についてお伺いします。

7-1. 当センター発行の「がんの冊子」を利用していますか。

[N=291]



ほぼ全ての施設で「がんの冊子」が利用されていました。最も多い利用方法は、院内で自由に手にとることができるよう配架し、また持ち帰れるようにしているというものでしたが、自由にとっていける形においてある施設、閲覧用を見て必要な人はスタッフに声をかける形にしている施設がありました。また、「相談の中で利用している」も同等に多い回答でしたが、「冊子を見たかと尋ねるとその人の理解度や混乱がわかる」など、情報提供資料としての活用だけでなく、相談を展開しアセスメントするツールとしても利用されていました。

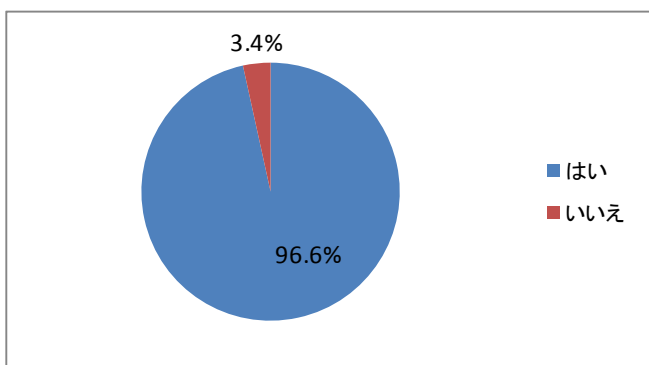
閲覧・配布用として提供	184
<ul style="list-style-type: none"> ● 正面玄関を入った目立つ場所にラックを設置し、資料として置いている。ご自由にお持ちいただくようにしている。 ● 病棟や玄関などに冊子を陳列し、必要な方が情報をとれるようにしている。 ● 冊子を購入し、情報コーナーに置き、自由に閲覧でき、持ち帰れるようにしています。疾患別の冊子は診断名を言われた方や、その病名を疑われている方、臓器のことや病気について、ステージなどの情報提供時に、役立てています。療養上の事柄など人気で相談後に緩和ケアや口内炎、心のケア、家族ががんになったらなど、皆さん持ち帰られています。インターネット上でダウンロードできる情報提供もしていますが、ご高齢でネット環境にない方も多いので、冊子を手にとって持ち帰られています。 ● 相談支援センターの前の冊子コーナーに一冊ずつ見本を置き、ほしい方にはカウンターで声をかけてもらいお渡ししています。 ● 患者家族に対する説明および配布用として利用以前はラックに入れ、だれでも持ち帰ることができるようにしていましたが、複数持ち帰ったり、直接関係のないがん種も持ち帰ったりされていたので現在は必要と思われる方のみ配布。 	
相談時の情報提供	140
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援センターの相談場面で、思考レベルでの情報整理が必要な方等に用いています。ある患者さんからは「心がいっぱいの中には頭に入ってこなかった情報も、落ち着いたときに冊子で確認できるのでよかった」との声をいただきました。医師からの説明が、あまり理解されていないときなどこの冊子を利用すると「なぜ」が解消されることが多い。 ● 冊子の見本(一覧コピー)を相談室のある通路掲示板に掲示中。それを見た患者、家族の方などが来室し有用と思われる冊子の閲覧をしたり、ご希望があれば差し上げています。また、相談を受ける中で、病気の理解を深めていただくために、冊子を使い説明をしています。 ● 患者・家族に説明するときに利用している。「地域の療養情報」と一緒に特に「がんと療養」「がんと社会」シリーズを配布している。 ● 相談者にまず冊子を見たか聞いてみると、理解度や混乱の度合いがわかる。問題点を整理するため、知識を確認し理解を深めるために活用している。 ● 冊子を患者さんに渡しながら疾患について治療について説明している。わかりやすいため効果がある。がんカウンセリング時にも使用している。頻繁に利用しています。皆さんから大変喜ばれています。病気や治療の理解のため、冊子を渡し説明しています。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さんとの相談場面で、その型のがん種に合うものがあれば、基本的にお渡ししている。内容を一緒に見ながら、理解を深めている。 	
診療科、医師、NS からの説明で利用	17
<ul style="list-style-type: none"> ● 外来等で、主治医が患者、家族への説明に利用しております。 ● 診療科によっては、がんと診断して患者に説明するときに、必ずこの小冊子を利用している。患者図書室の中や前に配置して、だれでも自由に閲覧し、持ち帰ることができるようにしているため、興味関心がある冊子を来院者が持ち帰っている。冊子で見たうえで相談に来る場合もある。 	
サロン運営の資源として	18
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援の中で必要な方にはお渡ししている。患者サロン開催時に配布用として設置している。 ● 冊子の種類によって活用方法が異なりますが、【相談支援センターにご相談ください】は、相談室を初めて使われる方にお渡しすることが多いです。また、院内・外でのがん(緩和)関係のイベント時にも活用しています。 	
ピアサポートに利用	1
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さんの相談の内容によって、配布、院内に置いてある。ピアサポート相談に活用。 	
職員の学習用	4
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談員の入職時オリエンテーション資料および、学習教材。 ● 相談員のがんの知識を深めるために相談室内で活用しています。 	
カンファ、講演会で利用	19
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者図書室や、相談室で配布をしているほか、がん関係の講習会、サロン、イベントなどで配布をしている。大変好評である。 ● 「病院ふれあいまつり」で、がん相談支援センターコーナーに設置。市民公開講座など、市民が集まる場所での設置。 	
相談室の利用促進・広報に役立てる	3
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用用途は、当院を利用される方へ配布(ご自由にお取りください)県民・市民公開講座等イベントで紹介・配布。相談時や医師の説明時にも利用し、がん相談支援室の広報にも利用している。 ● 当院がんセンターおよび各外来に設置し、配布を行っている。裏面に支援室の連絡先を追加することで、相談件数の増加にもつながっている。 ● 閲覧用として支援センター前に設置し、希望者は支援センターへ声をかけるようにしています。必要な方にその情報があっているのか、話を伺い、支援センターへつながるケースもあります。 	
その他	3
<ul style="list-style-type: none"> ● がん相談の際にホームページの紹介を行っている。 ● 拠点病院以外の病院等に提供している。(保健所に設置にされた患者サロンに提供) ● 食事に関する冊子が必要とされている。 ● 現在は、図書室・がんサロン・病棟に掲示。外来の目立つところに掲示していたが何名かの患者さんから、「がん・がん・・・目に入ってただけでもストレスになる。撤去してほしい。」と言われた。外来には、がんの冊子を図書室に設置している旨の案内を掲示している。 	

問 6 発注システムの利用についてお伺いします。各病院から「がんの冊子シリーズ」の発注ができる Web サイト「がん情報サービス刊行物発注システム」を平成 24 年 2 月 1 日よりサービス開始いたしました。

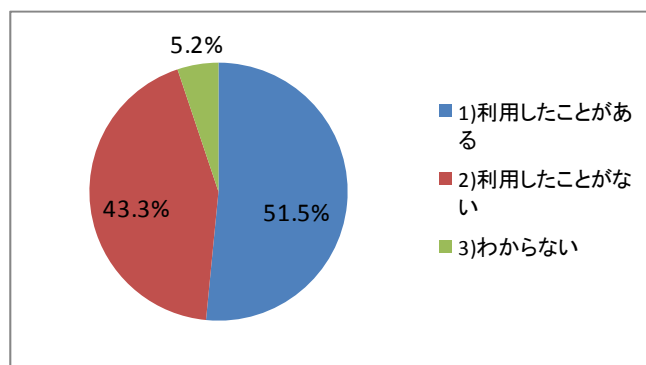
6-1. 発注システムを知っていますか。

[N=291]



6-2. 発注システムを利用したことがありますか。

[N=291]



6-3 発注システムに対する要望、改善点などがございましたら教えてください。

ほぼ全ての施設で、「がんの冊子」が利用されていました。また、2012 年 2 月より開始した、がんの冊子を購入できる「がん情報サービス刊行物発注システム」についてもほぼ全ての施設に認知されていました。このシステムに関する要望としては、発注単位を小さくする、注文できる回数を増やす、注文から発送までの期間を短縮するなど多く見られました。全国からの要望をとりまとめて印刷することで、印刷コストを下げる仕組みをとっているため、全てのご希望に添うことは難しいのですが、ご要望を受けて、今年度半ばより患者数の少ない一部の冊子については 50 部単位の注文に変更しております。ご要望については委託業者にも伝え、できる限り利用しやすいシステムとなるよう今後も改善を加えていきたいと思っております。

問 8 今後の患者必携の普及・活用に向けたご要望などをお伺いします。

8-1 国立がん研究センターが提供するがん情報の活用・普及に関して、国立がん研究センターがん対策情報センターへのご意見やご要望などをご記入ください。

主な要望として、他院の相談支援センターがどのような工夫をしているのかといった事例や経験の共有、がん対策情報センターからの情報の一層の充実、特に患者さんに気軽に手渡せる資材の提供、情報のアップデート、マスメディア等を利用した世論への働きかけなどが挙げられました。予算と人員の制約の中で期待通りの速度で対応できていない側面もありますが、これらのご要望に沿う形で年々活動を充実させております。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。